

20年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第5号
令和5年6月7日

体験を通して“頑張り方”を身に付ける

校長 富塚 義幸

私はスポーツが好きです。しかし、小学校・中学校・高等学校・大学で所属した部活動やクラブ活動は、柔道と水泳のたった二つです。水泳は長続きしなかったので、バタフライで泳ぐと溺れているように見えるレベルです。教師になり部活動の顧問として関わったのは、剣道、バスケットボール、卓球、バレーボール、ハンドボール、陸上競技、ソフトボール、柔道です。部員の必死に取り組む姿に、様々な刺激を受けました。同時に、指導が思うようにはいかず悩むこともありました。競技者としての心構えを伝えることはできるのですが、競技に関する専門的な技術を伝えることができず苦勞しました。2・3年生は、私よりも競技のことを知っている場合が多かったからです。顧問として私が最初にするのは、良い見本となるチーム・選手の練習を部員と共にしっかり見ることでした。県チャンピオンの実際であったり、全国チャンピオンの映像であったり。それから、練習成果の発表の場（試合）を迎えるための過程（練習）の質について一緒に考えました。自己目標について語り合い、その目標の達成度について振り返り、時には助言しました。日頃の練習では、前回からの変化を観察し、わかる言葉で伝えることを大事にしました。中学校の部活動は、スポーツや芸術などの楽しさを味わう大事な体験の場です。また、その過程が後の生き方に影響を及ぼすことが多々あります。所属する学校で部活動を選ぶということは、限られた競技や分野から選択することです。しかし、実はその先に夢中になれる、自分の能力が発揮される未知の競技や分野が無限にあることも事実です。今まで出会っていないだけで、1年後、10年後、50年後に出会うかもしれません。そして、私たちは、**さまざまな体験を通して、物事に向き合った時に発揮される“頑張り方”を身に付けていく**のです。過去の体験を新たな場面に当てはめ、戸惑いをできるだけ小さくしてより大きな成果に導くことを考えるようになります。スポーツだけでなく、日常生活や学校行事においても当てはまるのではないのでしょうか。

さあ、私達が生活しているこの校舎やグラウンドで、“頑張り方”を身に付けた先輩がたくさんいることを胸に刻み、力強い一歩を踏み出しましょう。地区中学校総合体育大会はもうすぐです。「正々堂々！全力で！フレーフレーは・や・まー」

＝保健体育委員会の企画『ワークアウトチャレンジ』＝

5月29日（月）昼休み、地区中総体の前哨戦として（？）体力向上を目的に『ワークアウトチャレンジ』が体育館で行われました。部活動ごとに、30秒間バーピージャンプに挑み、それぞれの部の平均回数を競いました。体力十分の部とその平均回数を紹介します。

第1位：野球部（17.3回）

第2位：剣道部（17.2回）

第3位：女子バス部（17.0回）

お見事！20回以上の達成は、石川愛斗さん、井澤千熙さん

仲嶋蘭生さん、笹原侑晋さん、芦野明日香さん、門脇愛桜さん、奥山永彩さん、芦野さくらさんです。



特集：『ふるさと教育の森』に寄せて

5月31日（水）晴天、山ノ内字上平地内の国有林において、村山市『ふるさと教育の森』事業が開催されました。この事業は、「森の中で苗木を植え、育てるという体験学習を通じて、自然や森林の大切さを学び、ふるさとに対する愛着を育むとともに、体験の中で『生きる力』を育てる」ことをねらいに、昭和57年（1982年）から続いています。これまでおよそ7万本の苗が植えられたそうです。第1回目の植林には大類正通先生が参加しました。（どんな中学生だったのか気になります…）開会行事で、「植林は温暖化の一因となる二酸化炭素を増やさない行動『ゼロカーボン』につながる」ことを教えていただきました。午前中の植林体験では、グループごとに分かれ、少花粉スギ306本とブナ16本の苗木を唐鍬やディブルなどで掘った穴に入れ土をかぶせ抜けないように踏みしめました。おいしい昼食（各自の弁当）の後は、8つの講座に分かれて、以下の森林教室に参加しました。

講座名	準備物
(1) 木炭づくり	軍手
(2) 五感を使った自然観察	メモ帳、鉛筆、タオル、軍手、飲み水
(3) 山野草を探そう	手袋、山菜を入れるビニール袋、長靴、タオル
(4) 『子ども樹木博士』にチャレンジしよう	メモ用ノート、筆記用具
(5) 森の不思議な〇〇探し	軍手、タオル
(6) 間伐体験	軍手
(7) 森の中での科学実験～土のはたらきを観察しよう～	(特になし)
(8) 村産みどり活用科「中学生講座」	軍手、ペン、ノート

テレビのインタビューに杉原美咲さん（3年）は、「木と一緒に（自分自身が）成長できるのは良いことだなと思います。こういう活動を通して自然に触れられるのは良かったなと思います。」と話していました。また、佐藤真心さん（3年）は、「（植林した苗が）災害もなく、立派に育ってくれたらうれしいと思います。少しでも二酸化炭素を減らして、よりきれいな空気づくりができたらなと思いました。」と話していました。私は、参加した生徒の皆さんが、この体験を通して一回り成長できたことを強く感じました。私自身、ふるさととの未来について深く考える有意義な一日となりました。

【スナップ写真】

